



市民 登場

No.764

ポップなアメリカを描くイラストレーター ウラタ・スパンコールさん

◆京都精華大学卒業後、個展を開きながら「ダウントOWNのごっつええ感じ」のDVD BOXイラストなどを担当。現在も大阪マラソン公式Tシャツのイラスト提供や「ビリケンさん」とのコラボなどで活躍中。本名は佐々木典子(ささきのりこ)。47歳。

好きなことを続けたことで、人や 社会とつながり居場所ができました

アメリカ郊外を想起させるノスタルジックな風景やキャラクターをアクリル絵の具で色鮮やかにキャンバスに描く。時には粘土で立体的に成形しイメージを膨らませることも。着想の源泉は幼少期に見た「グーニーズ」「スタンド・バイ・ミー」などの冒険映画で、成人後に旅したアメリカの写真も参考にする。「親近感のある愛らしい姿とアメリカ特有の雰囲気テーマに描いています」とほほ笑む。

現在はフリーのイラストレーターとして活動。ユニクロ心斎橋店の限定Tシャツや店舗壁画へのイラスト提供など活躍するが、実は10年以上のブランクがある。大学卒業後すぐに上京しアパレルや音楽、放送業界でのイラスト提供などで活躍するが、次第に仕事の依頼が減少。「自分の絵は必要とされていない」と実力に限界を感じて地元大阪へ戻り結婚。未練を残しながらも絵に費やしていた時間は子育ての時間にならなくなっていった。子どもの成長とともに時間も

でき「自分が打ち込んでいる姿を見せたい」と数年前から制作を再開。インスタグラムへの投稿をきっかけに仕事の依頼が舞い込み、アートフェアではオーディエンス賞を獲得。会場では以前の活動を知るファンが涙しながら再開を喜んでくれた。「私の絵が人に響いていたんだって初めて過去を肯定できました」。同業者からも「もう辞めるなよ」と声を掛けられ仲間の存在にも励まされた。「昔は作品を認めてほしいという気持ちが強かった。今の自分にとって、絵はコミュニケーションツール。好きなことを続けたことで、人や社会とつながり居場所ができました」

最近では共同制作に力を入れる。「ビリケンさん」の商標を持つ会社とのコラボでは自身の世界観にビリケンさんがやってきた設定で作品を展開中だ。「大阪のポップカルチャーとして世界に発信したいですね」。その目は冒険者のように輝いている。



「川とともに生きるまち」

こんにちは、四万十市です！今月号の表紙は、四万十市にある岩間沈下橋です（土佐くろしお鉄道中村線中村駅から車で約50分）。増水時に川に沈むことを想定して設計された欄干のない橋「沈下橋」。岩間沈下橋は、四万十市のパンフレットやポスターなどでよく使用されています。



自慢の写真・イラストが表紙に!?

枚方の風景などをテーマにした写真・イラストを大募集。▶応募 メールまたは市ホームページの専用フォームに住所・氏名(ペンネーム希望の場合はペンネームも)・年齢・電話番号・メールアドレス、作品の説明・題名を書いて作品データを添付し広報プロモーション課(☐kouhou@city.hirakata.osaka.jp)へ。詳細は市ホームページ参照。

※応募作品は市公式フェイスブックやインスタグラムで公開します。



専用フォーム
はこちら